



巻 頭 言

愛知県高等学校工業教育研究会長
愛知県立名南工業高等学校長 清水 寿浩

工業教育研究会では、「技術の発展や高度化に対応した工業教育の充実」を今年度の統一テーマとし、各部会・委員会での事業を計画的に実施してきました。その結果、今年度も会員の皆様の御尽力により、活発な活動が展開され多大な成果を収めることができました。ここに厚くお礼申し上げます。

5月26日(土)、「第24回総合競技大会」が開催され、19校133名の生徒が選手として「ものづくり」の技術や技能を競い合いました。メイン会場である愛知総合工科高校では旋盤作業競技、機械製図競技、電子回路組立競技、測量競技、木材加工競技、化学分析競技の6競技を実施、サブ会場である株式会社トーエネック教育センターでは電気工事競技の1競技が実施されました。特に今年度は愛知県を中心とする東海地区が全国ものづくりコンテストの担当ということもあり、いつも以上の活気を感じ、どの会場でも白熱した競技が繰り広げられました。全国大会に出場した選手の中には、今井一希選手(一宮工業高校)のように電気工事競技部門で全国優勝するなど、不断の努力の成果を発揮した最高の結果もありました。また女子生徒の活躍が顕著に見られる大会でもありました。

10月13日(土)、「第10回愛知県工業高校生溶接競技大会」が愛知総合工科高校を会場として開催されました。この大会は県外からの参加者も多く、アート部門には16校47名、競技部門には21校48名の生徒が競い合い、作品はどれも力作で、とても熱い大会となりました。アート部門で最優秀賞の梶川真衣選手(岡崎工業高校)の「獅子搏兔」という作品は、気品と迫りに満ちた大作であり、大変感動しました。

11月24日(土)、25日(日)、「あいち技能プラザ2018」が名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)で開催されました。本研究会のブースでは、アロマキャンドルづくりや絵付け、サンドブラストなどが行われ多くの家族連れで大盛況な2日間でした。

12月15日(土)、「第11回愛知県工業高校生ロボット競技大会」が刈谷市産業振興センター(あいおいホール)で開催されました。今年度は新しい競技「ROBORUG ～ROBOT RUGBY 2018～」という2台のロボットによるラグビー競技で、22校32チームが熱戦を繰り広げました。各試合とも、パスキャッチ、トライ、キックが決まるごとに観客やチームメイトからの歓声が上がリ、大変盛り上がった大会となりました。今年度は技術も操縦も優れた、名古屋工業高校の2チームが優勝・準優勝を独占しました。優勝した家族の方から、子どもは3年間ロボットづくりに没頭し、家族も一緒に応援を続け、この大会での優勝を目指して頑張ってきたという言葉に強く心を打ちました。

平成31年1月29日(火)、「総合研究大会」が豊川市勤労福祉会館で開催されました。刈谷工業高校の石川剛也先生と瀬戸窯業高校の山田裕久先生から、日頃の実践の成果を発表していただきました。どちらの研究発表も、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な能力や主体性を育むためのとても効果ある実践内容でありました。また、新東工業株式会社の川合悦蔵特別顧問より「ものづくり企業の未来を担う技術者教育 ～人工知能時代でのアナログ思考の大切さを思う～」のテーマで御講演をいただきました。AIやロボットに代表される高度情報化や科学技術の進展により人間の仕事が奪われるのか、という問いに対し、新たなもの、新たな製品が出現し、新たなビジネスが生まれ、新たな仕事が増えるとの話がありました。

今後も基礎・基本を大切に、新しい技術や高度な技能を身に付け、主体的、積極的に地域で活躍できる生徒を育てていくために、会員の先生方のより一層の研修・研究、各種関係機関との密接な連携・協働が必要だと考えています。今後の日本、愛知を支える人材育成に御尽力いただきますとともに、愛知県高等学校工業教育研究会の更なる発展・充実のため、御支援・御協力をお願いいたします。